



江戸時代の小判1両は、今のお金にするといくらぐらいなの

小判1枚は今のお金で4万円くらい

江戸時代に最初にできたのが慶長小判です。小判1枚は1両ですが、金は17・8グラムふくまれていました。幕末までの266年間に、年号のついた小判が十種類作られていますが、金がふくまれている割合はそれぞれちがいます。最初の小判の場合、金のねうちだけで、今のお金に直せば23000円くらいになりますが、小判1枚のねうちとすれば、4万円くらいです。

江戸時代には、寛永通宝など銅銭がよく使われていましたが、銅銭1枚は今の10円玉くらいのねうちでした。「小判1枚はこの銅銭の4000倍のねうち」と幕府は決めていたのです。

小判の古銭は十万～百万円かかる

おすもうとりのくらいに、「十両」という力士がいます。これは、年間十両の給料とりという意味だそうです。今でこそ約40万円ですが、お金にねうちのあった江戸時代には、そうとうな収入だったでしょう。

ちなみに、現在、小判の古銭を手に入れようとすると、1枚で十万～百万単位の金が必要ですよ。古銭のねだんを知るには『日本貨幣カタログ』を参考にするといいでしょう。

(監修・保岡 孝之)

